

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	英語ⅡB（2B）	
科目基礎情報							
科目番号	0051		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	一般教科（人文科学系）		対象学年	2			
開設期	通年		週時間数	2			
教科書/教材	be English Expression I Advanced いいずな書店be English Expression II Advanced いいずな書店be English Expression I Advanced Workbook いいずな書店be English Expression II Advanced Workbook いいずな書店						
担当教員	菅原 隆行,大西 絵理香						
到達目標							
1. 教科書で扱った文法事項の使い方を理解し、ライティングやスピーキングに運用できる。 2. 教科書で扱った会話表現の使い方を理解し、実際の会話で使うことができる。 3. 日英後の音の違いについて理解し、聞き分けでき、発音を区別することができる。 4. 教科書で扱った文法事項を用い、80語～100語程度の英作文ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	教科書で扱った文法事項の使い方を理解し、ライティングやスピーキングに運用できる。		教科書で扱った文法事項の使い方を理解し、辞書や文法書を参照すれば、ライティングやスピーキングに運用できる。		教科書で扱った文法事項の使い方が理解できない。		
評価項目2	教科書で扱った会話表現の使い方を理解し、実際の会話で使うことができる。		教科書で扱った会話表現の使い方を理解し、実際の会話で使うことができる。		教科書で扱った会話表現の使い方を理解することができない。		
評価項目3	日英後の子音の違いと母音の違いについて理解し、聞き分けでき、発音を区別することができる。		日英後の子音の違いについて理解し、聞き分けでき、発音を区別することができる。		日英後の発音の違いについて理解することができない。		
評価項目4	教科書で扱った文法事項を用いて、与えられたテーマについて、自力で80語～100語の英文が書ける		教科書で扱った文法事項を用いて、与えられたテーマについて、辞書や文法書を参照すれば80語～100語の英文が書ける		与えられたテーマについて、80語～100語の英文が書けない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	この授業では、中学校で既習の文法事項や構文を定着させるとともに、高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を新たに習得することを目標としている。 また、ここで扱う文法事項や構文を用いたさまざまな言語活動を通じ、総合的な英語力の育成を目指す。 より具体的な目標は次の2点である。 (1) 英検準2級一次試験合格レベルの文法知識とリスニング能力の習得 (2) 英検準2級二次試験の英語での応答のための基礎の確立						
授業の進め方・方法	毎回の授業は基本的に次の流れで進めていく（学生の理解度等により、授業内容や進度を変更する場合もある）。 (1) 小テスト(10分程度) 既習事項や宿題の内容などから出題。授業の内容の定着を図る。 一定の点数に満たなかった場合、再テストの受験、もしくは課題の提出を課す。 (2) 教科書 1.5回の授業につき、1単元のペースで進めていく。 各単元は次の流れで進める。 ①導入：会話文を読んで、当該単元で学習する文法事項と会話表現を導入する。また、日本語とは違う音の発音練習を行う。 ②定着：練習問題を通して、当該単元で扱う文法事項の定着を図る。 ③発展：単元のテーマに沿って、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの4技能のトレーニングを行う。 スピーキング練習の際、ペアワークの成果を発表してもらう場合もある。 Workbook は自学自習用として用い、定期的に提出してもらう。 文法書（総合英語 be 3rd Edition）も基本的には自学自習用の教材である。教科書よりも詳しい文法の解説が載っているため、一通り目を通してから授業に臨むのが好ましい。また、授業でわからなかった点、取りこぼした点を復習する際にも有用である。 定期試験は基本的には授業で扱った内容から出題するが、さまざまな英文への応用力を問う問題を出題する場合もある。						
注意点	50以上を合格点とする。それぞれの定期試験結果60%、授業態度、小テスト、課題の結果を40%で評価する。学年総合評価は前期末と後期末の成績の平均である。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス		授業の進め方と評価の仕方について説明する関係詞を使うことができる		
			I Lesson 19				
		2週	I Lesson 19		関係詞を使うことができる。		
		3週	I Lesson 20		比較をする表現を使うことができる		
		4週	I Lesson 20 I Lesson 21		比較をする表現を使うことができる		
		5週	I Lesson 21		比較をする表現を使うことができる		
		6週	I Lesson 22		仮定法を使うことができる		
		7週	I Lesson 22 I Lesson 23		仮定法を使うことができる		
		8週	到達度試験（前期中間）		上記項目について学習した内容の理解度を確認する		
2ndQ	9週	試験の解説と解答		前期中間試験の解説と解答			
		I Lesson 23		仮定法を使うことができる			

後期		10週	I Lesson 24	文をつなぐ表現を使うことができる
		11週	I Lesson 24 I Lesson 25	文をつなぐ表現を使うことができる
		12週	I Lesson 25	文をつなぐ表現を使うことができる
		13週	II Lesson 13	比較を用いた英作文ができる
		14週	II Lesson 13	比較を用いた英作文ができる
		15週	到達度試験（前期末）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
		16週	試験の解説と解答	前期期末試験の解説と解答および授業アンケート
	3rdQ	1週	II Lesson 14	仮定法を用いた英作文ができる
		2週	II Lesson 14 II Lesson 15	仮定法を用いた英作文ができる 複文構造を持つ文を作れる
		3週	II Lesson 15	複文構造を持つ文を作れる
		4週	II Lesson 16	知覚動詞を用いて英作文ができる
		5週	II Lesson 16 II Lesson 17	知覚動詞を用いて英作文ができる 認識を表す動詞を用いて英作文ができる
		6週	II Lesson 17	認識を表す動詞を用いて英作文ができる
		7週	II Lesson 18	許可・提案等の表現を用いて英作文ができる
		8週	到達度試験（後期中間）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
	4thQ	9週	試験の解説と解答 II Lesson 18	後期中間試験の解説と解答 許可・提案等の表現を用いて英作文ができる
		10週	II Lesson 19	存在や変化の表現を用いて英作文ができる
		11週	II Lesson 19 II Lesson 20	存在や変化の表現を用いて英作文ができる 「させる」「させる」の表現を用いて英作文ができる
		12週	II Lesson 20	「させる」「させる」の表現を用いて英作文ができる
		13週	II Lesson 21	日本語とは違う表現方法を用いて英作文ができる
		14週	II Lesson 21	日本語とは違う表現方法を用いて英作文ができる
		15週	到達度試験（後期末）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
		16週	試験の解説と解答	後期末試験の解説と解答および授業アンケート

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	2	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	2	
			英語運用能力の基礎固め	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	2	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	2	

評価割合

	試験	小テスト	課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	10	10	0	0	100
基礎的能力	40	20	10	10	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20